

令和 6 年 6 月 19 日現在

機関番号：62618

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19H01264

研究課題名(和文)空間移動と状態変化の表現の並行性に関する統一的通言語的研究

研究課題名(英文)A crosslinguistic study of the parallelism of the linguistic expressions of spatial motion and change of state

研究代表者

松本 曜(Matsumoto, Yo)

大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所・研究系・教授

研究者番号：40245303

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,100,000円

研究成果の概要(和文)：空間移動と状態変化の言語表現における並行性について、通言語的に研究を行った。以前に提案されていた類型論的枠組みを改訂し、移動の経路と状態の変化が文の主要部で表されているか、それ以外で表されているかという区別に基づいて諸言語の表現の分析を行った。その結果、a)諸言語を通じて、状態変化は文の主要部を用いて表現するケースが、空間移動よりも多い傾向がある；b)状態変化の種類によって主要部(動詞)で表すかそれ以外で表すかが異なる傾向があり、一時的状態への変化の場合に前者が多いことが明らかになった。それらの成果は、移動に関しては現在編集集中の英文書籍の中で、また状態変化に関しては日本語書籍にまとめられる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

空間移動の言語表現が状態変化やその他の言語表現の基礎になっているという主張は、言語研究の中で大きな役割を果たしてきたが、その並行性についての通言語的、数量的な研究は行われてこなかった。今回の研究において、空間移動と状態変化の表現に関する共通性と差異が明らかになったことで、両者の関係を問い直す必要があり、その点で学術的意義は大きい。また、この研究は言語教育に関しても意義が認められる。空間移動と状態変化の表現をからめて導入するのが良いかどうかは、言語によるということになる。

研究成果の概要(英文)：A crosslinguistic study of parallelism in the linguistic expressions of spatial motion and the change of state is conducted. A new typological framework is adopted to analyze the expressions of various languages, based on whether the path of motion and the change of state are expressed in the head of the sentence or elsewhere. The results suggest a) across languages, change of state tends to be expressed using the head of a sentence more often than spatial motion; b) the choice of the head or else varies much according to the types of the changes of state and that the use of the head is more common in the description of a change to a temporary state. The results are discussed in an English volume currently being edited regarding motion, and in a Japanese book regarding the change of state.

研究分野：言語学

キーワード：言語類型論 状態変化表現 空間移動表現

1. 研究開始当初の背景

本プロジェクトは、諸言語における空間移動と状態変化を表す表現について、統一的な調査方法に基づき通言語的研究を行うものである。移動と状態変化について言語表現上の共通性があるという主張はかねてからなされてきたが、その並行性についての検証は十分に行われてきたとは言えない。たとえば、諸言語の移動を表す語彙と構文に関して類型論的な差異があることが指摘されているが、状態変化の表現においても同様の差異が見られるかどうかについては、体系的な研究が行われてこなかった。

2. 研究の目的

そこで本プロジェクトでは、両者に関する統一的な調査を、14の言語において行い、並行性を検証することを目的とする。具体的には、各言語の移動表現において見られる類型論的な特徴が、状態変化表現においても見られるかどうかを研究する。

3. 研究の方法

空間移動に関してはすでに収集されたデータの分析によって研究を進めた。状態変化については、今回、1から調査を行った。当初は、1)移動と状態変化に関する体系的語彙項目・構文調査を行い、さらに、2)特定の移動と状態変化を表現する構文に関して、実験調査、さらには一部の言語でコーパス調査による数量的研究を行う、としていた。ところが、コロナ禍の中にあって、フィールド調査や実験調査が限定的にしか行えない状況が生じ、特に状態変化については研究方法の変換を強いられた。最終的には、フィールド調査における語彙項目・構文調査と、コーパス調査における数量的な調査によって研究を進めた。どちらの調査方法においても、12の状態変化についての調査を行い、統一的な通言語的な比較ができるようにした。12の状態変化とは、表1のものである。

死亡
覚醒
喜悦
(物理的)拡大
赤色化
(物理的)破壊
氷結
温度上昇
(ドアなどの)開放
清潔化
改善

表1 12の状態変化

これらの状態変化を諸言語がどのように表現するかを調べ、それを空間移動と状態変化に共通の類型論的枠組みによって分析した。その枠組みとは、移動、変化の表現の表現の中核になるのが文の主要部(主動詞)か、それ以外かという対立に基づくものである。主要部(動詞)を用いた表現とは、赤色化 と言えば「顔を赤らめた」のような文であり、それ以外の位置を用いた表現とは、「赤く塗った」のような表現である。

4. 研究成果

移動表現においても、経路が主要部で表されるか、それ以外で表されるかが類型論的に重要であることが示されたほか、各種の要因によって表現位置が変化することも明らかになった。

状態変化については、2つの重要な点が明らかになった。一つは、状態変化においては、空間移動よりも主要部(動詞)を用いる傾向がどの言語でも強いことである。これは、移動表現において主要部(動詞)以外の要素を用いる傾向が強い英語のような言語においても、状態変化においては主要部(動詞)を用いる傾向が強いことに、はっきりと表れている。もう一つは、状態変化の種類によって大きな違いがあることである。表1は日本語において、12の状態変化の表現

位置をコーパスを用いて調べた結果である（主要部の使用を黒で示している）。

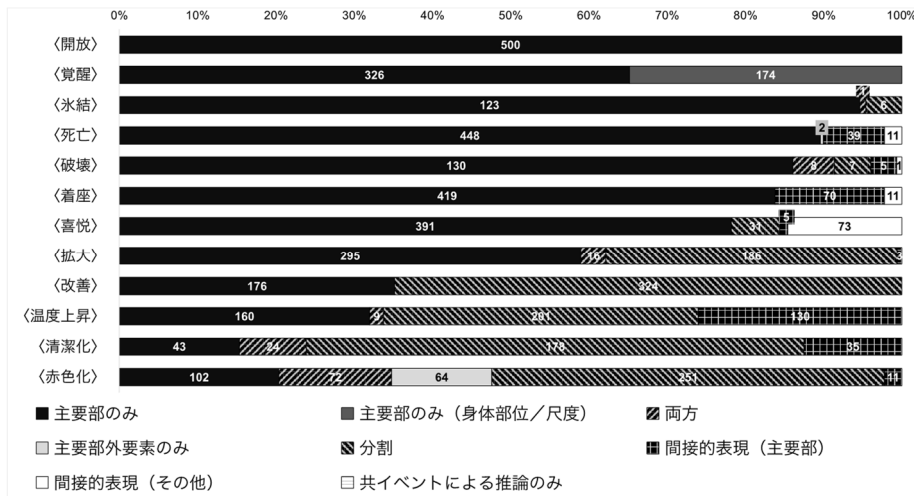


図1 12種類の変化を表す日本語表現における変化表示位置（松本・氏家 印刷中）

どのような状態変化が動詞で表現される傾向があるのかについては、複数の言語において、一時的な状態への移行は動詞が使われやすい傾向が見出された。

移動表現と空間移動表現の並行性に関しては、以前に主張されていたほど、普遍的に言えることではないと言える。イロカノ語のように空間移動については動詞連続構文が使われる一方、状態変化についてはそれが使われないなど、まったく異なった表現を行う言語もある。その一方、中国語の使役移動・使役状態変化表現のように、並行性の高い表現が行われる場合もある。移動と状態変化の並行性に言語による相違があることは、空間移動の言語表現は、普遍的に状態変化やその他の言語表現の基礎になっているという主張に疑問を投げかけるものである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計23件（うち査読付論文 19件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 松本曜	4. 巻 -
2. 論文標題 移動表現の研究におけるコーパスと実験	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 実験認知言語学の深化	6. 最初と最後の頁 93-111
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Matsumoto Yo	4. 巻 6
2. 論文標題 The semantic differentiation of verb-te verb complexes and verb-verb compounds in Japanese	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Verb-Verb Complexes in Asian Languages	6. 最初と最後の頁 139 ~ 164
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1093/oso/9780198759508.003.0006	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Matsumoto Yo	4. 巻 1
2. 論文標題 The semantics of Japanese verbs	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Wesley M. Jacobsen and Yukinori Takubo, Handbook of Japanese Semantics and Pragmatics	6. 最初と最後の頁 19 ~ 50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1515/9781614512073-001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Matsumoto Yo, Kawachi Kazuhiro	4. 巻 -
2. 論文標題 Introduction. Motion event descriptions in broader perspective	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Broader Perspectives on Motion Event Descriptions	6. 最初と最後の頁 1 ~ 22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1075/hcp.69.int	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Akita Kimi, Matsumoto Yo	4. 巻 5
2. 論文標題 A fine-grained analysis of manner salience	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Broader Perspectives on Motion Event Descriptions	6. 最初と最後の頁 143 ~ 180
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/hcp.69.05aki	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Matsumoto Yo	4. 巻 9
2. 論文標題 Neutral and specialized path coding	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Broader Perspectives on Motion Event Descriptions	6. 最初と最後の頁 281 ~ 316
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/hcp.69.09mat	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Matsumoto Yo	4. 巻 -
2. 論文標題 Motion Verbs in Japanese	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Mark Aronoff, Oxford Research Encyclopedia of Linguistics	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/acrefore/9780199384655.013.295	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Matsuse Ikuko	4. 巻 1
2. 論文標題 Distinct coding of Deixis and Path in Kathmandu Newar	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Broader Perspectives on Motion Event Descriptions	6. 最初と最後の頁 25 ~ 40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/hcp.69.01mat	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Eguchi Kiyoko	4. 巻 2
2. 論文標題 Patterns of deictic expressions in Hungarian motion event descriptions	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Broader Perspectives on Motion Event Descriptions	6. 最初と最後の頁 41 ~ 62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/hcp.69.02egu	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takahashi Kiyoko	4. 巻 4
2. 論文標題 Syntactic and semantic structures of Thai motion expressions	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Broader Perspectives on Motion Event Descriptions	6. 最初と最後の頁 105 ~ 140
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/hcp.69.04tak	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Morita Takahiro	4. 巻 6
2. 論文標題 Attraction of attention in perceived motion events weighed against typology and cognitive cost	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Broader Perspectives on Motion Event Descriptions	6. 最初と最後の頁 181 ~ 204
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/hcp.69.06mor	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kawachi Kazuhiro	4. 巻 7
2. 論文標題 Should Talmy's motion typology be expanded to visual motion?	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Broader Perspectives on Motion Event Descriptions	6. 最初と最後の頁 205 ~ 234
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/hcp.69.07kaw	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋清子	4. 巻 4
2. 論文標題 環状移動を表すタイ語動詞 wonの語彙相	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 認知言語学の羽ばたき：実証性の高い言語研究を目指して	6. 最初と最後の頁 39-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋清子	4. 巻 33
2. 論文標題 タイ語の動詞 / 前置詞wonの用法分析：タイ語教育のための一資料	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 神田外語大学紀要	6. 最初と最後の頁 237-252
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松本 曜, 鈴木 唯, 高橋 舜, 谷川みずき, 長屋尚典, 吉成祐子	4. 巻 8
2. 論文標題 複数局面を含む移動事象表現と言語類型論：日本語と他言語の比較	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 窪園晴夫, 野田尚史, プラシャント パルデシ, 松本曜 日本語研究と言語理論から見た言語類型論	6. 最初と最後の頁 178-205
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 守田貴弘	4. 巻 12
2. 論文標題 認知言語学と言語類型論	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 窪園晴夫, 野田尚史, プラシャント パルデシ, 松本曜 日本語研究と言語理論から見た言語類型論	6. 最初と最後の頁 285-310
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yuko Yoshinari, Miho Mano, Kiyoko Eguchi, Anna Bordilovskaya, and Yo Matsumoto	4. 巻 20
2. 論文標題 Cross-linguistic Varieties in Coding Multiply-specified Trajectory Motion Events	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Papers from the 20th National Conference of the Japanese Cognitive Linguistics Association	6. 最初と最後の頁 392-399
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15084/00003048	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉成祐子, アンナ=ボルジロフスカヤ, 江口清子, 眞野美穂	4. 巻 3
2. 論文標題 複数局面ルートの移動事象を描写する表現の類型論的分析	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 認知言語学の羽ばたき: 実証性の高い言語研究を目指して	6. 最初と最後の頁 22-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yuko Yoshinari, Miho Mano, Kiyoko Eguchi, Anna Bordilovskaya, and Yo Matsumoto	4. 巻 20
2. 論文標題 Cross-linguistic Varieties in Coding Multiply-specified Trajectory Motion Events	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本認知言語学会論文集	6. 最初と最後の頁 393-399
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 古賀裕章	4. 巻 41
2. 論文標題 日本語は使役移動事象をどう表現するのか - 使役手段の違いに応じた表現パターンの変異 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東京大学言語学論集	6. 最初と最後の頁 131-153
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15083/00078584	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉成祐子・眞野美穂・江口清子	4. 巻 22
2. 論文標題 日本語学習者の使役移動表現：INTO経路概念表出における中間言語的特徴	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 社会言語科学	6. 最初と最後の頁 172-186
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.19024/jajls.22.1_172	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Miho Mano, Yuko Yoshinari, and Kiyoko Eguchi	4. 巻 -
2. 論文標題 Interlingual versus intralingual tendencies in second language acquisition: Expression motion events in English, Hungarian and Japanese	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Ragnar Arntzen, Gisela Hakansson, Arnstein Hjelde and Joerg-U. Kessler, eds, Teachability and Learnability across Languages	6. 最初と最後の頁 183-204
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/palart.6.09man	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉成祐子, アンナ・ポリジロフスカヤ, 江口清子, 眞野美穂	4. 巻 -
2. 論文標題 複数局面ルートの移動事象を描写する表現の類型論的分析	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 松本曜教授還暦記念論文集刊行会(編) 認知言語学の羽ばたき 実証性の高い言語研究を目指して	6. 最初と最後の頁 22-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

[学会発表] 計44件(うち招待講演 8件/うち国際学会 23件)

1. 発表者名 Monica Kahumbu, Yo Matsumoto
2. 発表標題 A Corpus-based Study of Externality of Emotions in Swahili and Japanese
3. 学会等名 The Third Cultural Linguistics International Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yo Matsumoto, Kyosuke Yamamoto, Yuko Yoshinari, and Yua Amano
2. 発表標題 Motion event descriptions in Japanese and Korean: An experimental approach
3. 学会等名 Data-oriented approaches to meaning in Korean and Japanese (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yo Matsumoto
2. 発表標題 Motion Event Descriptions across Languages
3. 学会等名 Changshu Institute of Technology Lectures in Linguistics (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 吉成祐子, 眞野美穂, 江口清子, 松本曜
2. 発表標題 日本語・英語・ハンガリー語学習者の 視覚的移動表現における経路表示
3. 学会等名 第21回日本第二言語習得学会 国際年次大会 (J-SLA2021) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 吉成祐子, 眞野美穂, 江口清子
2. 発表標題 移動表現の類型論と第二言語習得研究－非対称性の仮説を検証する－
3. 学会等名 Prosody and Grammar Festa
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 眞野美穂, 吉成祐子
2. 発表標題 母語話者と学習者の日英語移動表現における事態認識 - 副詞的要素の使用から -
3. 学会等名 社会言語科学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yuko Morokuma
2. 発表標題 Distributed path coding in Quechua: The case of the 'directional' suffix -yku
3. 学会等名 NAMED 2021: De/constructing motion events (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 諸隈夕子
2. 発表標題 ケチュア語アヤクーチョ方言における 2 つの「来る」: 動詞 hamu と方向接尾辞-mu
3. 学会等名 日本言語学会第 163 回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 夏海燕
2. 発表標題 「<自己領域へのモノの移動>から<不快な経験をする>へー「てくる」構文に見られる 不快感 についてー」
3. 学会等名 シンポジウム「マルチモダリティーと言語」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松本曜
2. 発表標題 認知意味論研究におけるコーパスと実験の利点と限界
3. 学会等名 英語コーパス学会 第47回大会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松本曜
2. 発表標題 諸言語における移動経路の表現：共通性と差異
3. 学会等名 対照日本語研究会（東京外国語大学）（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 河内一博
2. 発表標題 ビデオ実験による形態統語論・意味論・語用論の類型的研究
3. 学会等名 日本アフリカ学会第57回学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 諸隈夕子
2. 発表標題 ケチュア語アヤクーチョ方言における移動表現
3. 学会等名 移動動詞公開研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 夏海燕
2. 発表標題 从語言類型論学探究漢語自反類動詞由来被動標記的語法化
3. 学会等名 漢語史研究の材料、方法与學術史觀國際學術研討会（國際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yiting Chen
2. 発表標題 A corpus-based approach to the difference between Japanese compound verbs and verbal compound nouns: Revisiting the coextensiveness condition
3. 学会等名 The 11th International Conference on Practical Linguistics of Japanese (ICPLJ 11) (國際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kazuhiro Kawachi, Erika Bellingham, and Juergen Bohnemeyer
2. 発表標題 Causer intentionality, causer type, and agentivity in causative event descriptions.
3. 学会等名 Causal constructions in the world's languages (synchrony, diachrony, typology) (國際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 夏海燕
2. 発表標題 日本語と中国語の直示動詞における話者領域と意味拡張の関連性
3. 学会等名 Prosody and Grammar Festa 5
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山本恭裕
2. 発表標題 イロカノ語の移動事象描写における構文選択と事象のパッケージング
3. 学会等名 Prosody and Grammar Festa 5
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 吉田 樹生, 島 健太, 鈴木 唯, 谷川 みずき, 林 真衣, 細羽 洸希, 諸隈 夕子, 長屋 尚典
2. 発表標題 日本語と世界の言語における単複と頻度の関係 : 言語類型論的コーパス研究
3. 学会等名 Prosody and Grammar Festa 5
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yuko Yoshinari, Miho Mano, Kiyoko Eguchi, Anna Bordilovskaya, and Yo Matsumoto
2. 発表標題 Cross-linguistic Varieties in Coding Multiply-specified Trajectory Motion Events
3. 学会等名 日本認知言語学会第20回全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松本曜, 吉成祐子, 長屋尚典, 鈴木唯, 高橋舜, 谷川みずき
2. 発表標題 複数局面経路の言語表示類型 : 日本語と他言語の比較から
3. 学会等名 Prosody and Grammar Festa 4
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yo Matsumoto, Anna Bordilovskaya, Kiyoko Eguchi, Kazuhiro Kawachi, Miho Mano, Takahiro Morita, Naonori Nagaya, Kiyoko Takahashi and Yuko Yoshinari
2. 発表標題 A crosslinguistic experimental study of fourteen different paths: Toward a scale-based typology of motion event descriptions
3. 学会等名 ALT 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kiyoko Eguchi, Miho Mano, Anna Bordilovskaya, Yuko Yoshinari and Yo Matsumoto
2. 発表標題 Cross-linguistic tendency of Path encoding: A production experiment of 14 different Paths in English, Hungarian, Italian, Japanese, and Russian
3. 学会等名 The 15th International Cognitive Linguistics Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yo Matsumoto
2. 発表標題 A closer look into the fictive motion of vision: A crosslinguistic study
3. 学会等名 NAMED 2019 (Neglected Aspect of Motion Events Description) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Anna Bordilovskaya, Kiyoko Eguchi, Miho Mano, and Yuko Yoshinari
2. 発表標題 Inter- and Intra-typological Variations of Complex Trajectory Motion Events
3. 学会等名 The 15th International Cognitive Linguistics Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 河内一博
2. 発表標題 クブサビニ語の状態変化表現の概観
3. 学会等名 「空間移動と状態変化の表現の並行性に関する統一的通言語的研究」研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 河内一博
2. 発表標題 シダーマ語の状態変化表現の概観
3. 学会等名 「空間移動と状態変化の表現の並行性に関する統一的通言語的研究」研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kawachi, Kazuhiro, Juergen Bohnemeyer, Erika Bellingham
2. 発表標題 国際共同研究プロジェクト “Causality across languages” の研究方法とこれまでの成果の概要
3. 学会等名 「空間移動と状態変化の表現の並行性に関する統一的通言語的研究」研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Bohnemeyer, Juergen, Erika Bellingham, Pia Jarnevelt, Kazuhiro Kawachi, Yu Li, Alice Mitchell, Guillermo Montero-Melis, Sang-Hee Park, Anastasia Stepanova, and Emanuel Bylund
2. 発表標題 The encoding of causal chains across languages.
3. 学会等名 94th Annual Meeting of the Linguistic Society of America (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kawachi, Kazuhiro, Erika Bellingham, and Juergen Bohnemeyer
2. 発表標題 A typological analysis of causative event descriptions in Sidaama (Highland East Cushitic; Ethiopia).
3. 学会等名 日本アフリカ学会第56回学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kawachi, Kazuhiro, Ikuko Matsuse, and Yo Matsumoto
2. 発表標題 Speaker 's territory as a factor in the use of deictic verbs and verb affixes: The cases of Kupsapiny and Newar.
3. 学会等名 The 15th International Cognitive Linguistics Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 諸隈夕子
2. 発表標題 ケチュア語アヤクーチョ方言における状態変化表現：移動表現との比較
3. 学会等名 空間移動と状態変化の表現の並行性に関する統一的通言語的研究ミーティング
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山本恭裕, 諸隈夕子
2. 発表標題 状態変化事象表現の類型：ケチュア語とイロカノ語のデータ
3. 学会等名 「空間移動と状態変化の表現の並行性に関する統一的通言語的研究」研究会
4. 発表年 2020年

1 . 発表者名 Kyosuke Yamamoto, Kiyoko Takahashi
2 . 発表標題 Segmentation of complex motion events in two verb-serializing languages
3 . 学会等名 The 15th International Cognitive Linguistics Conference (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Kawachi, Kazuhiro, Erika Bellingham, Juergen Bohnemeyer, and Sang-Hee Park
2 . 発表標題 Iconicity in usage: A cross-linguistic study of causative event descriptions.
3 . 学会等名 The 15th International Cognitive Linguistics Conference (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Anna Bordilovskaya, Kiyoko Eguchi, Miho Mano, and Yuko Yoshinari
2 . 発表標題 Inter- and Intra-typological Variations of Complex Trajectory Motion Events
3 . 学会等名 The 15th International Cognitive Linguistics Conference (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Miho Mano, Yuko Yoshinari, Kiyoko Eguchi, and Yo Matsumoto
2 . 発表標題 Difficulty in acquiring Medial Path expressions for L2 learners: An experimental study on motion events with various Paths
3 . 学会等名 EuroSLA 2019 (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1. 発表者名 守田貴弘
2. 発表標題 認知言語学と言語類型論
3. 学会等名 Prosody and Grammar Festa 4 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Takahiro Morita
2. 発表標題 La deixis exprimee par la langue et par la gestuelle: une difference entre le japonais et le francais
3. 学会等名 Langue et subjectivite (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 守田貴弘
2. 発表標題 言語はジェスチャーから進化したのか：日本語話者とフランス語話者の言語行動と非言語行動
3. 学会等名 日本フランス語学会談話会 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takahiro Morita
2. 発表標題 Linguistic deictic meanings beyond gestures: A contrastive study on motion event description in French and Japanese
3. 学会等名 The 15th International Cognitive Linguistics Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Miho Mano, Yuko Yoshinari, Kiyoko Eguchi, Yo Matsumoto
2. 発表標題 Difficulty in acquiring Medial Path expressions for L2 learners: An experimental study on motion events with various Paths
3. 学会等名 The 29th conference of the European Second Language Association (EuroSLA29) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kawachi, Kazuhiro, Anja Latrouite, and Juergen Bohmeyer
2. 発表標題 Introduction.
3. 学会等名 The 15th International Cognitive Linguistics Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松本曜
2. 発表標題 移動事象の言語化：実験調査による英語と日本語との対照
3. 学会等名 言語系学会連合・日本英語学会共催 2019年度公開シンポジウム「ことばは現実をどう捉えるか ことばの対照研究のおもしろさ」(招待講演)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 Yo Matsumoto, Kazuhiro Kawachi	4. 発行年 2020年
2. 出版社 John Benjamins	5. 総ページ数 324
3. 書名 Broader Perspectives on Motion Event Descriptions	

1. 著者名 吉成 祐子、眞野 美穂、江口 清子、松本 曜	4. 発行年 2021年
2. 出版社 くろしお出版	5. 総ページ数 282
3. 書名 移動表現の類型論と第二言語習得	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	吉成 祐子 (Yoshinari Yuko) (00503898)	岐阜大学・グローバル推進機構・教授 (13701)	
研究分担者	河内 一博 (Kawachi Kazuhiro) (00530891)	慶應義塾大学・商学部(日吉)・教授 (32612)	
研究分担者	守田 貴弘 (Morita Takahiro) (00588238)	京都大学・人間・環境学研究科・教授 (14301)	
研究分担者	眞野 美穂 (Mano Miho) (10419484)	大阪大学・人文学研究科(人文学専攻、芸術学専攻、日本学専攻)・准教授 (14401)	
研究分担者	小嶋 美由紀 (Kojima Miyuki) (10431777)	関西大学・外国語学部・教授 (34416)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	長屋 尚典 (Nagaya Naonori) (20625727)	東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・准教授 (12601)	
研究分担者	古賀 裕章 (Koga Hiroaki) (40597241)	慶應義塾大学・法学部(日吉)・准教授 (32612)	
研究分担者	高橋 清子 (Takahashi Kiyoko) (50364922)	神田外語大学・外国語学部・教授 (32510)	
研究分担者	石塚 政行 (Ishizuka Masayuki) (50838539)	東京農工大学・工学研究院 言語文化科学部門・講師 (12605)	
研究分担者	山本 恭裕 (Yamamoto Kyosuke) (70830008)	東京外国語大学・世界言語社会教育センター・講師 (12603)	
研究分担者	夏 海燕 (Ka Kaien) (80727933)	神奈川大学・外国語学部・准教授 (32702)	
研究分担者	江口 清子 (Eguchi Kiyoko) (90812537)	大阪大学・大学院人文学研究科(外国学専攻、日本学専攻)・講師 (14401)	
研究分担者	中川 裕 (Nakagawa Hiroshi) (70227750)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授 (12603)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------